

第 19 回全国市議会議長会研究フォーラム 報告書

公明党議員団

【日時】

令和 6 年 10 月 9 日(水)・10 日(木)

【場所】

トーサイクラシックホール岩手
(岩手県盛岡市)



1 研究フォーラムの概要

本フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、共通する政策課題等について情報交換を行うとともに、議員同士の一層の連携を深めることを目的に、岩手県盛岡市において、令和 6 年 10 月 9 日(水)、10 日(木)の 2 日間にわたって開催された。

近年、地方議会は、投票率の低下や無投票当選の増加など、議会への関心の低下や議員のなり手不足が深刻化しており、厳しい課題に直面している。

昨年、地方議会の役割及び議員の職務等の明確化などを内容とする地方自治法の一部改正法が成立し、多様な人材の地方議会への参画促進に向けた環境整備が進められている。

今回は、「主権者教育の新たな展開」をテーマとし、各地方議会の主権者教育に係る事例を検証するなど、改めて地方議会の課題を整理した上で、その解決に向けた今後の方向性を展望する内容であった。

2 パネルディスカッション【地方議会の課題と主権者教育】

コーディネーター：静岡大学人文社会科学部法学科教授 井柳 美紀氏

パネリスト 1：法政大学法学部教授 土山 希美枝氏

パネリスト 2：一般社団法人 W O N D E R E D U C A T I O N
代表理事 越智 大貴氏

パネリスト 3：読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局 渡辺 嘉久氏

パネリスト 4：盛岡市議会議長 遠藤 政幸氏

はじめに、コーディネーターの井柳氏が統一地方選の投票率を振り返り、年々投票率が減少傾向にあることを指摘した。そして、昭和 22 年教育基本法、昭和 44 年文科省通知、平成 27 年文科省通知を紹介し、政府としての対応と現状について解説した。

井柳氏は、議長会による主権者教育の推進に関する決議を踏まえ、3つの課題があることに言及した。1 点目は、地方議会の課題として、投票率低下や無

投票当選の増加のほか、議員の性別や年齢構成に偏りがあること。2点目は、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進する必要があること。3点目は、いわゆる出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取組に対する支援を講ずる必要があること。以上3点の課題提起をした。

土山氏からは、「議会」が「主権者教育」していると称するのはやめませんか、という提言があった。教え、育てることを軽く見てはいけないという意である。高校生議会を通じて高校側が、議会という「場」を教育の一環として、またその効果を高める機会として活用することは有益であり、山形県遊佐町のような政策を実体化する権限と財源をもった実践的教育に至る道は遠いとしても、議会が教育の「場」として活用されるのであれば、そこには意義があるという説明がなされ、「主権者教育」と呼ばれる事業の在り方を再考させられるものであった。

越智氏は自身の13年間の主権者教育の取組みについて振り返り、若者は政治や社会をどう捉えているのかという問いに対して、若者は関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っていると結論づけ、議会の役割として、交流の機会を増やし、「自分の意見が聞いてもらえる」、「自分のアイデアが反映されるかも」と感じられる機会を増やすことが重要と指摘した。

また、学校現場における主権者教育の現状について、政治的中立への過度な配慮もあるが、それは学校が悪いわけではなく、議会として、学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくるのが大切だと強調された。そして、政治“家”との交流は、こども達の政治意識の醸成に大きく影響するものであり、1回でも議員の皆様との交流の機会をつくっていただきたいと述べられた。

渡辺氏からは、高校生786人に対しアンケートを行い、政治意識について調査した結果の説明があった。アンケートでは、投票に行くつもりがあるか否かを確認したうえで、のちの問いにて、投票によって政治は変えられると思うかを尋ねており、投票に行くと答えた生徒からは、変えられるというプラスの意見が71%を占め、投票に行かないと答えた生徒からは、政治は変えられないというマイナスの意見が64%を占めたことに言及し、ここが問題と指摘された。

そして、政治が未来を変えるのだとすれば、政治とつながることは自分の未来を創造することと捉え得る。どういう未来を生きたいか、「こうありたい」という未来のために、何が必要かと生徒たちに問いかけ、より自分の意見に近い人に投票するよう教えていくことが重要と結論付けられた。

遠藤氏からは盛岡市議会高校生議会について報告があった。「次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めること」を開催目的としたこの事業は、3つの方針に基づいている。1つ目は、盛岡市議会として主権者教育に取り組むものであること、2つ目は、議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じる機会であること、3つ目は、議員が高校生と直接交流する場であることという3点である。参加者の声として「市政に関心を持った」「議会の役割が理解できた」等の好意的な感想が報告されたとのこと。

3 課題討議 【主権者教育の取組報告】

コーディネーター：東北大学大学院情報科学研究科准教授 河村 和徳氏
事例報告者1：伊那市議会前議長 白鳥 敏明氏
事例報告者2：四日市市議会議員（第83代議長） 諸岡 覚氏
事例報告者3：山鹿市議会議長 服部 香代氏

最初に、コーディネーターの河村和徳氏が主権者教育の理想と現実について

説明し、現在の主権者教育で感じる限界について言及し、課題解決に向けたアプローチを掲げた。

白鳥氏からは高校生の議会傍聴と意見交換会の取組について報告、平成30年の市議会議員選挙が無投票になり議員のなり手不足に危機感を抱いたことがきっかけとなり、若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換等の企画を決定、令和元年より取り組みはじめ、これまでに議会傍聴4回、意見交換会5回、グループ懇談会3回と精力的に行った結果、高校生から通学路の外灯増設の要望を受け執行部へ改善要望の提出、1人の高校生が保育園を通じてアンケートを行い保護者336名から得た回答をもとに、議会へ請願を提出、伊那市初の高校生からの請願提出となり議会をより身近なものに感じられる事例を発表した。

諸岡氏からはワイ！ワイ！GIKAI（四日市！若者！議会）の取組について報告、出前型意見交換会とし各常任委員会が地域の学校、大学に出向きテーマをもとに意見交換会を開催、これまでに特別支援学校2回中学校1回、大学1回開催、令和6年度中学校1回、定時制・通信制高校1回、大学1回、商工会議所青年部1回を予定しており今後は各種業界団体、各種労働組合など制限を設けず、幅広い対象との交流を目指す。議会側が開かれた議会を行動で示していく重要性について報告がなされた。

服部氏からは山鹿市議会が取り組んだシチズンシップ教室～なりたい職業ランキングベスト10入りを目指して～の取組について報告、議論して最終的に意見を集約していく経験しておくことが大事と考えシチズンシップ教室を小学校で開催、1、市議会について知る2、議員の仕事を理解する3、選挙の意義や投票の大切さがわかる、以上3点を伝えたいこととして授業に臨んだ、子どもたちの感想としてプロのサッカー選手を目指しているが、なれなかったときは議員になってもいいと思った。選挙は簡単だと思っていたけど、選挙をしてみてもどちらにしようか迷った。真剣に考えて選挙で選んで行こうと思った。等、選挙が生活に密着していることに理解が深まったと報告した。



所感

1日目のパネルディスカッションを通じた印象深い話として、渡辺氏から遠藤氏へ質問が投げかけられ「実際に高校生の意見が実現できた事例はありますか？」との問いに対して遠藤政幸氏から「だと良いのですが…」との回答があり、時間やお金、人の問題等様々な問題があり、すぐに実現は難しいが、やはりどんなに良い取り組みであっても実際に声が形となって実現できないと意味がないもの

となるのではないかと危惧した。本市においても議会報告会が開催され市民の皆様の声聞かせていただいているが考えさせられたパネルディスカッションであった。

2日目午前の課題討議では各地域の実情に合わせた主権者教育の事例報告がなされた、私を感じたことはどの地域も議会側から小・中・高校生に対して積極的にアプローチしているという点である。どんなに開かれた議会を叫ぼうと執行部や学校との合意形成を図り、協力を得ながら主権者教育を行っていかなければ形式的な教育になってしまい継続は難しくなってしまう。議会を身近なものに感じてほしい、選挙は生活に密着していると伝えることは容易なことかもしれないが、教えて納得してもらうためには、どこまでいっても議会側の熱量で決まってしまうと感じた。

フォーラム参加を通じて、地方議会の課題は各地域で共通点も多く、こうした全国で情報交換ができる場に参加することは議員として非常に有益だと感じることができた2日間であった。